

非核の政府を求める石川の会 会報

非核・いしかわ

東京電力福島第一原発事故への対応をめぐり、七月二七日衆議院厚生労働委員会に参考人として出席した児玉龍彦・東京大学先端科学技術研究センター教授の意見陳述に大きな反響がありました。本紙に紹介します。

衆議院厚生労働委員会・参考人陳述

放射線の健康への影響

東京大学先端科学技術研究センター教授
東京大学アインストープ総合センター長

児玉 龍彦

私は三月一五日に大変に驚愕いたしました。私も東京大学には二七か所のアインストープセンターがあり、放射線の防護とその除染などの責任を負っております。それで、私自身は内科の医者として東大病院の放射線施設の除染などにずっと、数十年かかわっております。最初に三月一五日午前九時ごろ東海村で五μシーベルトという線量を経験しました。それを文科省に直ちに通報いたしました。その後東京で〇・五μシーベルトを超える線量が検出されました。これは一過性に下がりましたが、次は三月二二日に東京で雨が降り、〇・二μシーベルト等の線

事務局
〒920-0848
金沢市京町 28-8
石川民医連労働組合気付
Tel 076-251-0014
郵便振替
00760-0-15689

- 非核 5 項目
- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める。
 - ② 国是とされる非核三原則を厳守する。
 - ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
 - ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する。
 - ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する。

量が降下し、これが今日に至るまで高い線量の原因になっていると思っております。

さしあたって健康に影響はない？

それで当時の枝野官房長官が、「さしあたって健康に問題はない」ということをおっしゃいましたが、私は実際はこれは大変なことになると思いました。何故かというとして現行の放射線障害防止法というのは、高い線量の放射線物質が少しあるものを処理することを前提にしています。この時は総量はあまり問題ではなくて、個々の濃度が問題になります。

ところが今回の福島原発事故というのは一〇〇キロメートル圏で五μシーベルト、二〇〇キロメートル圏で〇・五μシーベルト、さらにそれを超えて足柄から静岡のお茶にまで及んでいることは今日みなさん全てがご存じのとおりであります。

われわれが放射線障害を診る時には、総量をみます。しかし東京電力と政府からは今回の福島原発の総量がどれくらいであるかはっきりした報告は全くされておりません。

そこで私どもはアインストープセンターのいろいろな知識を基に計算してみますと、まず熱量からの



「九・一一」と「三・一一」は全く奇妙な偶然である。同じ日に同時多発テロ一〇年と東日本大震災半年の節目を迎えた▼米政権が強行した「テロとの戦争」は、世界規模でテロを拡大した。唯一の超大国としてこれを押しつけた米覇権主義は国際社会から拒否されるに至った。結局、大量破壊兵器もテロとの結びつきもなく、「対テロ戦争」は何も解決できず、逆にそれを促進して破綻。戦争の死者は少なくとも二二万人、戦費四兆ドル（三二〇兆円）。この罪は極めて重い▼フクシマを機に全世界の原子力・エネルギー政策全体が見直されつつある。ドイツやイタリアのような脱原発の決定が世界の注目を浴び、各国の原子力プロジェクトの相次ぐ中止・撤退は、まさに全世界の原子力産業の退潮と再生可能エネルギーへの投資・開発促進をもたらした。これはエネルギー革命とも呼ぶべき様相であり、この流れに掉さすのは人として当然である▼これらは人類的課題の解決には国際協力と平和が不可欠であることを示した。非核を展望する私たちは真に持続可能な社会に向けた本物のパラダイムシフトの最先端に立っている。自覚的に歩みたい(ま)。

計算では広島原爆の二九・六個分に相当するものが漏出しております。ウラン換算では二〇個分のものが漏出していると換算されます。さらに恐るべきことにはこれまでの知見で原爆による放射線の残存量と原発から放出された物の放射線の残存量は一年後には原爆が千分の一程度に低下するのに対して、原発からの放射線汚染物は十分の一程度にしかならない。つまり、今回の福島原発の問題はチェルノブイリと同様に原爆数十個分に相当する量と原爆汚染よりもずっと多量の残存物を放出したということがまず前提になります。

広島原爆の数十個分に相当

そうしますと、われわれシステム生物学というシステム論的のものを見るやり方です。やっているんですが、現行の総量が少ない場合にはある人にかかる濃度だけを見ればいいのです。しかしながら、総量が非常に膨大にありますとこれは粒子です。粒子の拡散は非線形という科学になります、われわれの流体力学の計算でも最も難しいことになります。核燃料というのは要するに砂粒みたいなものが合成樹脂みたいな物の中に埋め込まれています。これがメルトダウンして放出すると細かい粒子がたくさん放出されるようになります。そうしたものが出てまいりますと、どういふようなことが起こるか今回の稲藁の問題です。

例えば、岩手県の藤沢町では稲藁五万七千ベクレル/kg、宮城県の大崎市一万七千ベクレル/kg、南相馬市十万六千ベクレル/kg、白河市九万七千ベクレル/kg、茨城県の高萩市六万四千ベクレル/kgと

いうことで、この数字というのは決して同心円上にはいかない。どこでどういうふうに着ているかはその時の天候、それから、その物質がたとえば水を吸い上げたかどうか、それで今回の場合私は南相馬市に毎週七百km行って現在まで七回の除染をやっておりますが、南相馬市に最初に行った時には一台のカウンターしかありませんでした。農林省が通達を出したという三月一九日には食料も水もガソリンも尽きようとして南相馬市長が痛切な訴えをウエブに流したのは広く知られているところであります。そのような事態の中で通達一枚出しても誰も見ることが出来ないし誰も知ることができません。

南相馬市に毎週七百キロ通って・・・

稲藁がそのような危険な状態にあるということ、は全く農家は認識されていない。農家は飼料を外国から買って、何十万と負担を負ってさらに、牛にやる水は実際に自分たちと同じ地下水を与えるようにその日から変えています。そうすると、われわれが見るのは何をやらなければいけないかというところ、まず汚染地で徹底した測定が出来るようにするということを保証しなくてはなりません。

われわれが五月下旬に行った時、先程申し上げたように線量計は一台しか南相馬市に無かったというけれど、実際には米軍から二〇台の個人線量計がきていました。しかし、その英文の解説書を市教育委員会で見分けてもらってわれわれが行って教えてあげて実際に使い出してようやく二〇個の測定が出

来るようになっていて、これが現地の状況です。

そして先程から食品検査と言われていますが、ゲルマニウムカウンターのいうものではなく今日ではもっと、イメージングベースの測定器というのが遙かにたくさん半導体で開発されています。なぜ政府はそれを全面的に応用してやろうと全国に作るためにお金を使わないのか、三か月経ってそのようなこと全く行われていないことに私は満身の怒りを表明します。

政府の対応に満身の怒りを表明

私の専門は小淵総理の時から内閣府の抗体医薬品の責任者として、今日では最先端研究支援というので三〇億円をかけて抗体医薬品にアイソトープを付けて癌の治療にやる、すなわち人間の体の中にアイソトープを打ち込むというのが私の仕事です。から内部被曝問題に関して必死に研究しております。そこで内部被曝がどのように起きるかという問題を説明させていただきます。

内部被曝というものの一番大きな問題は癌です。癌がなぜ起こるかというDNAの切断を行います。ただし、ご存じのとおりDNAというのは二重らせんですから二重らせんの時は非常に安定的です。これが、細胞分裂をする時には二重らせんが一本になって、二倍になり四本になります。この過程のところがあるのがすごく危険です。そのために、妊婦や胎児、幼い子ども、成長期の増殖が盛んな細胞に対して放射線障害は非常に危険をもちます。さらに大人においても増殖が盛んな細胞、例えば放射性物

質を与えると髪の毛それから貧血、それから腸管上皮のこれらはいずれも増殖分裂が盛んな細胞でして、そういうところが放射線障害のイロハになります。それで私どもが内部に与えた場合に具体的に起こるので知っている事例を上げます。

これは実際には一つの遺伝子の変異では癌は起こりません。最初の放射線のヒットが起こった後にもう一個の別の要因で癌の変異が起こるといこうと、これはドライバームューテーションとかパッセンジャーミューテーションとか細かいことになりましたが、それは参考文献としてチエルノブイリの場合やセシウムの場合を挙げてあります。

α線はもつとも危険な物質

まず一番有名なのはα線です。「プルトニウムを飲んでも大丈夫」という東大教授がいるというのを聞いて、私はびっくりしましたが、α線はもつとも危険な物質であります。それはトロトラスト肝障害というので私も肝臓医はすごくよく知っております。ようするに内部被曝というのは先程から一般的に何ミリシーベルトという形で言われていますが、そういうものは全く意味がありません。

ヨウ素一三二は甲状腺に集まります。トロトラストは肝臓に集まります。セシウムは尿管上皮、膀胱に集まります。これらの体内の集積点をみなければ全身をいくらホールボディースキャンやっても全く意味がありません。トロトラストの場合、これは実際にトロトラストというのは造影剤でして一八九〇年からドイツで用いられ一九三〇年ごろから

は日本でも用いられましたが、その後二〇〇三〇年経つと肝臓がんが二五%から三〇%に起こるといふことがわかってまいりました。

最初のがんの発症までに二〇年

最初のがんが出てくるまで二〇年というのは何故かというところと最初にこのトロトラスト、α線核種なんです。α線は近隣の細胞を破壊します。その時に一番やられるのはP五三という遺伝子です。われわれは今ゲノム科学というので、人の遺伝子、全部配列を知っていますが、一人の人間と別の人間では大体三百万か所違います。ですから人間同じとしてやるような処理は今日では全く意味がありません。いわゆるパーソナルライフメディスンというやり方で放射線の内部障害をみる時も、どの遺伝子がやられてどういう風な変化が起こっているかということとをみるということが原則的な考え方として大事です。

トロトラストの場合、第一段階ではP五三の遺伝子がやられてそれに次ぐ第二、第三の変異が起こるのが二〇〇三〇年かかり、そこで肝臓がんや白血病が起こってくるということが証明されております。

次にヨウ素一三二、ヨウ素はみなさんご存じのとおり甲状腺に集まりますが、甲状腺への集積は成長期の甲状腺形成期が最も特徴的であり小児に起こります。しかしながら一九九一年に最初ウクライナの学者が「甲状腺がんが多発している」と言ったときに、日本やアメリカの研究者はネイチャーに「これは因果関係が分からない」ということを投稿して

おります。何故そんなことを言ったかというところと一九八六年以前のデータがないから、統計学的に有意だということと言えないということ。しかし、統計学的に有意だということがわかったのは、二〇年後です。二〇年後に何がわかったかというところと一九八六年から起こったピークが消えたためにこれは過去のデータが無くても因果関係があるということがエビデンス (evidence 証拠・根拠) になったです。疫学的証明というのは非常に難しく全部の事例が終わるまで大体証明できないです。ですから今われわれに求められています。

子どもを守るという観点から

子どもを守るという観点からは全く違った方法が求められます。そこで今行われているのは、ここには国立のバイオアッセイ研究センターという化学物質の効果を見る福島昭治先生という方がずっとチエルノブイリの尿路系に集まるものを検討されていまして、福島先生たちがウクライナの医師と相談、五百例以上の前立腺肥大の時に手術をしますと、膀胱もとれてきます。これをみまして検査したところ高濃度汚染地区、尿中に六ベクレル/kgという微量ですが、その地域ではP五三の変異が非常に増えており、しかも増殖性の前癌状態、P三八というMAPキナーゼとNF-κB (エヌエフ・カップ・ビー) というシグナルが活性化されているんですが、それによる増殖性の膀胱炎というのが必発でありまして、かなりの率に上皮内のがんができてくるということが報告されております。それで、この量に

愕然といたしましたのは福島の子どもの母乳から二〜三ベクレルが七人から検出されているということが既に報告されていることでもあります。

われわれアイソトープ総合センターでは現在まで毎週七キロメートル、大体一回四人づつの所員を派遣しまして南相馬市の除染に協力しております。南相馬市でも起こっていることは二〇キロ、三〇キロという分け方が全然意味がなくてその幼稚園ごとに細かく測っていかないと全然ダメです。それで現在二〇キロから三〇キロ圏にバスを走らせて千七百人の子どもが行っていますが、実際には南相馬市で中心地区は海側で学校の七割で比較的線量は低いです。ところが三〇キロ以遠の飯館村に近い方の学校にスクールバスで毎日百万円かけて子どもが強制的に移動させられています。このような事態は一刻も早く辞めさせてください。

いま、その一番の障害になっているのは、強制避難でないで補償しない。参議院厚生労働委員会が当時の東電の清水社長と海江田経済産業大臣が、そういう答弁を行っていますが、これは分けて下さい。補償問題とこの線引きの問題と子ども問題は直ちに分けて下さい。子どもを守るために全力を尽くすことをぜひお願いします。

緊急避難的除染と恒久的除染

それからもう一つは現地でやっていますと、除染というもの緊急避難的除染と恒久的除染をはっきり分けて考えていただきたい。緊急避難的除染をわれわれもかなりやっております。

例えば滑り台の下は小さい子が手をつくところですが、この滑り台に雨水がザッと流れてきますと毎回濃縮します。右側と左側とズレがあつて、片側に集まっていますと平均線量一μのところだと一〇μ以上の線量が出てきます。それで、こういうところの除染は緊急にどんどんやらなくてはなりません。

それからさまざまな苔が生えているような雨どいの下、これも実際に子どもが手をついたりしているところですが、そういうところは、例えば高圧洗浄機を持って行って苔を払うと二μシールドが〇・五μシールドまでになります。だけれども〇・五μシールド以下にするのは非常に難しいです。それは建物すべて、樹木すべて、地域すべてが汚染されていますと空間線量として一か所だけ洗っても全体をやることは非常に難しいです。ですから、除染を本当にやるという時にいったいどれだけの問題があり、どれ位のコストがかかるかということとを、イタイイタイ病の一例で挙げますと、カドミウム汚染地域、大体三千ヘクタールですが、そのうち千五百ヘクタールまで現在除染の国費が八千億円投入されております。もし、この千倍ということになれば、いったいどのくらいの国費の投入が必要になるのか。

四つの緊急提案

私は四つのことを緊急に提案したいと思います。第一に国策として、食品、土壌、水、日本が持っている最新鋭のイメージングなどを用いた機器

を用いてもう、半導体のイメージ化は簡単です。イメージ化にして流れ作業にしてシャットしていつてやるということの最新鋭の機器を投入して抜本的に改善して下さい。これは今の日本の科学技術力で十分可能です。

第二に緊急に子どもの被ばくを減少させるために新しい法律を制定して下さい。現在私がやっているのはすべて法律違反です。現在の放射線障害防止法では各施設で扱える放射線量、核種等は決められています。東京大学の二七のいろんなアイソトープセンターを動員して南相馬市の支援を行っていますが、多くの施設はセシウムの使用権限など得ておりません。

車で運搬するのも違反です。しかしながら、お母さんや先生方に高線量の物を渡してくる訳にもいきませんから、今の東大の除染ではすべてのものをドラム缶に詰めて東京に持って帰ってきております。受け入れも全て法律違反です。このような状態を放置しているのは国会の責任であります。

全国には例えば国立大学のアイソトープセンターはゲルマニウムをはじめ最新鋭の機種を持っているところはたくさんあります。そういうところが手足を縛られたままでどうやって国の総力を挙げて子どもが守れるのでしょうか、これは国会の完全なる怠慢であります。

第三には、国策として土壌汚染を除染する技術を民間の力を結集して下さい。これは、例えば東レとかクリタだとかさまざまな化学メーカー、千代田テクノとかアトックスというような放射線除去メ

ーカー、それから竹中工務店など様々なところは、放射線の除染などに対してさまざまなノウハウを持っていきます。こういうものを結集して現地に直ちに除染研究センターを作って実際に何十兆円という国費がかかるのをいまだと利権がらみの公共事業になりかねない危惧を私はすごく持っております。国の財政事情を考えたらそんな余裕は一瞬もありません。どうやって除染を本当にやるか、七万人の人が自宅を離れてさまよっている時に国会はいったい何をやっているのですか？以上です。

〔追記〕 児玉龍彦教授は参考人発言で「四つの緊急提案があります」としながら、時間切れのため三つの提案で終了されましたが、毎日新聞八月八日付にインタビュー記事が出ています。これによると四つ目の提案は「被災地のすべての自治体に『測定すぐやる課』と『コールセンター』を置く。電話を受けたら二〇〇三〇分でもいいから、家のまわりや子どもが行く場所と一緒に見て廻る。線量が高い場合はパッパッと除染する」ことのようにです。(核戦争に反対する医師の会MLより転載)

今年一〇月国連軍縮総会に提出

「核兵器全面禁止アピール」

国際署名の大波を！

常任世話人会

今年五月から取り組んでいる「核兵器全面禁止アピール」国際署名は藩基文国連事務総長の世界

大会にあてたメッセージで「皆さんが集めた一筆の署名、一つ一つの声明、集会を通じて、みなさんは世界で最も残虐な大量破壊兵器をなくすという歴史的なプロセスへ人々の参加を促しています」(尾西洋子さんの報告から)の励ましは私たちに確信を与えてくれました。

新たな国際署名は全国で六九一人の自治体首長と地方議会議長四九六人が署名し五十四万人二四四筆が集計されています。

石川県では四九一九筆集計

油野和一郎かほく市長、粟貴章野々市町長、石川宣雄穴水町長、泉谷満寿裕珠洲市長、小泉勝志賀町長、杉本栄蔵中能登町長、津田達宝達志水町長、八十出泰成内灘町長ら八首長、大林吉正七尾市議会議長、坂井毅川北町議会議長、坂井幸雄中能登町議会議長、杉本成一かほく市議会議長、久田良平能登町議会議長、藤井敬一羽咋市議会議長ら六議長、谷口正一元津幡町議会議長、田中正文志賀町議会議長、西野昇吾元川北町議会議長ら三三議長らが署名され、八月末現在四、九一九筆が集計されています。

「核抑止力」神話に固執する核保有国の態度と追隨する被爆国の政府の態度を変えさせる「力」は一筆の署名です。

世界大会に藩基文国連事務総長の代理で出席されたセルジオ・ドゥアルテ氏は「秋の国連総会に提出される国際署名は国連本部に展示する」と語られました。

「一は微力だけれどゼロではない」尾西洋子さ

んの報告の言葉です。署名の大波を起こし、そして国連本部にドーンと積み上げましょう。お手持ちの用紙にご署名いただき事務局までご返送をお願いいたします。

* * *

二〇一一年原水爆禁止世界大会

代表派遣費用募金のお礼と報告

非核の政府を求める石川の会は長崎市で開催された原水爆禁止世界大会に尾西洋子常任世話人を代表派遣しました。尾西洋子さんの報告は前号の会報で掲載されています。

派遣費用募金は前号の報告のあと、一団体二人から二万三〇〇〇円寄せられ、計一団体・三五人九万円となりました。心よりお礼を申し上げ、ご報告いたします。



核戦争を防止する石川医師の会は県内小中学校への「はだしのゲン」寄贈運動に取り組んでいます。詳しくは同封チラシをご覧ください。

【特別講演要旨】

東日本大震災と復興に向けた
新たなブランドデザイン

日本共産党衆議院議員 吉井 英勝

八月二二日の全国保険医団体連合会北信越ブ

ック会議にて、吉井英勝衆議院議員による特別講演
がありました。吉井議員は京都大学工学部原子核工
学科卒で、今回の東京電力福島原発事故が発生する
以前から国会での原発の危険性に関する質問は二
百回以上のことです。

1. 福島第一原発事故は人災

チェルノブイリ事故の後、「日本は炉型が違うか
ら大丈夫」と教訓化しなかった。二〇〇七年七月の
新潟県中越沖地震で柏崎刈羽原発三号機で二〇五
八ガルの地震動を記録、三六六五件の破損が発生し
たことについて、いまと同じく想定外と言っていた。

2. 原発事故は二重の人災

何度も警笛を鳴らしてきたのに、いずれも無視し
てきたのが一番目。二番目は、今回のような全電源
喪失という事態が発生したら、とにもかくにも燃料
頂部まで水位を保たないとメルトダウンにいたる
ことやジルコニウムが溶けて水素爆発の危険にさ
らされるのは自明なことなのに、ベントや海水注入
が遅れてしまったことが二番目。その結果、広域に
放射能を撒き散らしてしまった。つまり、即座に海

水注入に踏み切るべきだったとのことです。確か最
初のころ、廃炉にするかしないかの議論があつて、
海水注入が遅れてしまったという話がありました
が、吉井議員の話では東京電力は廃炉と株主代表訴
訟を恐れて、なかなか廃炉↓海水注入を決定できな
かったようです。

3. 老朽化した原発の実証実験

原発の配管などは老朽化してくると、肉厚が薄く
なつてしまつたり、腐食してしまつたりするそう
です。そうした老朽化した配管がどれだけの地震動に
耐えられるのかを実証するための実験所が、日本で
唯一、四国の多度津に約三百一〇億円で造られてい
たようですが、小泉内閣のころ、維持するのに一〇
億円もかかるために民間に二億円で売却してしま
い、ただの倉庫になつてしまつたそうです。

4. 海外メディアの関心―なぜ、東電は秘密主
義?―

電力会社は地域独占と総括原価方式で守られた
企業であり、地域の財界の中心。そこにゼネコンや
メガバンクが群がり、政治資金で政党を、研究費で
大学を、巨大広告費で大手マスコミを手玉にとつて、
原発利益共同体を形成してきたと説明すると、みな
納得してくれるとのこと。海外メディアからは、ま
るで旧ソ連と同じですぞと言われ、日本共産党もソ
連に対しては「社会主義の名を用いた官僚独占主
義」と批判し続けてきたのですよと説明しています。

5. 東京電力に全面的に責任を取らせる

原子力損害賠償支援機構法案が可決されたが、民
主党と、自民・公明で相談して決まつてしまった。
旧ソ連型の体制は何も変えられなかった。それより
も東京電力には全責任を負つてもらふべきで、もつ
ているあらゆる資産で補償し、株主には泣いてもら
うべきだし、メガバンクにも債権放棄してもらふべ
きである。東京電力がつぶれても、一時的に国有に
すれば、国民に電気がいなくなることはない。

6. 解決の道

再生可能エネルギー、自然エネルギーの開発・普
及に努めるべきだ。日本は「資源のない国」ではな
く、地熱は世界三位の資源量だし、世界平均二倍の
降水量があるので少水力発電にうってつけだ。もち
ろん環境を破壊するような巨大ダムの建設ではな
く、上流から下流にかけて、何段階にもわけて小水
力発電を造るべきだ。また国土の七割が森林なので、
ペレットストーブやペレットボイラーを普及させ
てもよい。こうしたことを地域の中小企業、農林漁
業と結び付けることにより、地域に仕事・雇用が生
まれ、地域経済の再生にもつながる。実は原発の上
うに遠いところから送電線を使って電気を送ると、
五%のロスが生じるので、非効率だし、エネルギー
政策も地産地消に変えてゆくべきである。

《城北病院副院長 齊藤典才》

二〇一一年日本平和大会 in 沖縄

非核・石川の会代表参加者募集

常任世話人会

「もう基地はいらない」は沖縄の総意

まやかしの「抑止力」である米軍に痛めつけられながら、敢然と戦っている沖縄。

普天間基地の県内移設反対で県民が団結し、二〇一四年までの辺野古への新基地建設を阻み、米軍再編を狂わせています。このような県民世論を前にして仲井真知事も「普天間基地の県内移設は無理」の立場を明確にしています。

六月二一日V字型滑走路の基地を建設することで日米「合意」しました。

これに対し仲井真知事は、「県としては地元への理解を得られない移設案は事実上不可能」「問題の原点は一日も早い同飛行場の危険性の除去であり、基地の固定化はあってはならない」と批判しています。その上、墜落を繰り返している不安的の垂直離着陸輸送機「オスプレイ」を米軍が普天間基地に配備することを日本政府も明らかにしました。人口密集地にある「世界一危険な基地」「世界一危険な軍用機」の配備：市民の命をないがしろにしたこんな計画を住民や自治体が認めるはずがありません。

「やんばるの森」と暮らしを守るたたかい

沖縄ではもう一つ、基地強化に反対する住民ぐ

るみの運動があります。

沖縄北部・東村高江の集落を取り囲むように、六つのヘリパッド（ヘリ発着帯）建設に反対する高江区民の運動です。日本有数のパインアップル産地、そして絶滅危惧種が一八八種生息し「世界遺産に」の声上がるほどの豊かな「やんばるの森」。そして沖縄県民の「水ガメ」です。

この計画は北部訓練場の半分を返還する条件としてその訓練場内にあるヘリパッドを「移設」するとし、返還されない訓練場内の一五カ所のヘリパッドに加え更に六カ所を新たに作る計画です。激しい訓練と爆音、豊かな自然の中で静かに暮らすことが出来ないと高江の住民。

沖縄防衛局は「環境調査もした」「住民には十分説明をした」と一方的に工事を強行しようとしています。飛行する機種・飛行ルートも明らかにしないため住民は納得できる話し合いを求めています。

今二四時間体制で四か所の座り込み、監視、抗議行動が続いています。人間として当然な要求に対し「世界自然保護基金」「日本自然保護協会」などもヘリパッド建設に反対し、県内外に支援の輪が広がっています。高江の住民のたたかいは問答無用の異常な米軍優先政治をやめさせるたたかいであります。

非核・石川の会からあなたも参加しませんか

日本平和大会は安保条約の廃棄を正面に据え毎年行われる全国集会です。非核・石川の会は代

表派遣をいたします。参加ご希望の方は事務局までご連絡下さい。

記

- ・ 一月二五日(金)一八時三〇分～開会総会
- ・ 一月二六日(土)九時三〇分～シンポジウム・分科会・動く分科会・青年集会
- ・ 一月二七日(日)一〇時～閉会集会
- ・ 一月二八日(月)県代表の基地調査行動・帰県

「和定例句会報」より

宿題「軽んずる」

佳作

星 啓 選

太陽も風も電力軽んじた

茂明

自立への道軽んじる新自由

迷天使

原発で命を軽んじボロ儲け

林

子供手当民主軽んじはずかしい

和子

被災地へ霞が関の冷たい目

一杜

フクシマを軽んじた知事なさない

茂明

人権軽視君が代座れば首が飛ぶ

大峰

エネ施策命を軽んずるままに

迷天使

いまずぐは無害とほざくセシウム禍

一杜

トモダチと煽てられつつ見下げられ

林

軸

脱原発民意も棄ててポスト菅

つるあきら

「鶴彬 こころの軌跡」

DVD販売開始 二〇〇〇円

神山征二郎監督が製作した「鶴彬 こころの軌跡」は一人近くの人々に鑑賞されています。

枯れ芝よ団結をして春を待つ

暁を抱いて闇にいる蕾

手と足をもいだ丸太にしてかえし

胎内の動き知る頃骨がつき

どの句を読んでも心を打たれます。

映画やDVDで何回観ても感動します。

「鶴彬 こころの軌跡」を少人数の集いや、家族だけでも、気楽に観たいという要望に応えて、DVDの一般販売が九月一二日よりはじまりました。ぜひ購入され、鑑賞してください。

◎お申し込みは左記へお願いします。

「鶴彬 こころの軌跡」DVD 二〇〇〇円

〒九二九-二二五 かほく市高松キ五 小山広助方

鶴彬を顕彰する会 宛

電話・FAX 〇七六・二八二・二二〇一

◎非核・石川の会でも受付いたします。

金沢市京町二八・八 石川民医労気付

非核・石川の会 宛

電話 〇七六・二五二・〇〇一四

FAX 〇七六・二五二・三九三〇

《非核平和・行事予定》

- ・九月二三日(金)一四時：石川県保険医協会主催「原発・いのち・みらい」講演会(講師 松井英介・岐阜環境医学研究所所長・医師) 近江町交流プラザ
- ・九月二三日(金)一七時半：石川県解放運動戦士合祀追悼集会・卯辰山「石川解放運動戦士之墓」前
- ・九月二八日(水)『アテルイ』碑めぐりバスの旅六時二〇分集合出発(京都・枚方方面) わらび座金沢公演実行委員会・〇九〇・八〇九四・二三二六内藤まで
- ・一〇月二日(日)：第六回石川県社会保障学校・一〇時～一二時記念講演「生きがい、希望の持てる社会をめざして」講師 湯浅誠反貧困ネットワーク事務局 長・一三時～一六時分科会と講座・県社会福祉会館
- ・一〇月六日(木)一二時半：核廃絶街頭署名・Mザ前
- ・一〇月二二日(土)～二三(日)第四六回全国学童保育研究集会・主催全国学童保育連絡会／石川県学童保育連絡会・金沢大学構内
- ・一〇月三〇日(日)小松基地航空祭
- ・十一月三日(木)一三時：九条の会・石川ネット主催「輝け九条！平和憲法公布六十五年記念石川県民集会」県教育会館ホール
- ・十一月三日(木)・休日一六時～一八時第三回常任世話人会・県教育会館二階談話室
- ・十一月六日(日)一三時：国民皆保険五十周年共同企画「いのち・国民医療を守れリレートーク」&「いのちの山河」上映・県立音楽堂邦楽ホール
- ・十一月九日(水)一二時半：核廃絶街頭署名・Mザ前
- ・十一月一九日(土)：九条の会全国交流会・東京
- ・十一月二五日(金)～二七日(日)：日本平和大会・沖縄
- ・十一月二六日(土)一七時半：新日本スポーツ連盟石川連盟「創立四五周年記念講演&レセプション」講師 山次俊介福井大学医学部准教授運動生理学・ホテル キャッスルイン金沢・問い合わせ〇七六・二五二・二三八二林まで
- ・一二月四日(日)午後：文化講演会「アテルイ・三閉伊一揆・大震災(仮題)」講師／茶谷十六わらび座民族芸術研究所前所長・主催わらび座「アテルイ」金沢公演実行委員会・場所未定
- ・一二月六日(火)一二時半：核廃絶街頭署名・Mザ前
- ・一二月一八日(日)一三時～一六時半：映画『荒木栄の歌が聞こえる』を観て歌おう！うたごえの集い・金沢市民芸術村パフォーミングスクエア

《編集後記》

七月十六日、石川県教育会館で開かれた『反核・平和おりづる市民のつどい二〇一一』で「二〇二〇年までに核兵器廃絶を！平和市長会議と市民の役割」と題して特別講演された秋葉忠利・広島大学特任教授(前広島市長)の講演報告書会員配布します。秋葉氏は核兵器廃絶は不可避であり、その論拠となるのはわれわれが多数派であり、被爆者の皆さんが六十六年間、「他の誰にもこんな体験をさせたくない」という強いメッセージを発信してきたこと、世界の都市でも歴史を通して「二度と悲劇を起こしてはならない」という強い思いが市民のなかにあり、私たちと繋がっていることを挙げられました。ぜひお読みいただき、ご感想をお寄せください。(か)